



の学校の学校だより

笑顔いっぱい・歌ごえいっぱい・花いっぱい

地域の風がいきかう学校 三田市立ゆりのき台小学校

《行事で育つ力！》

ゴールデンウィークから約3週間、力を合わせて頑張ってきたスポーツカーニバルが終わりました。本番を迎えるまでの間、毎日の練習に一生懸命取り組むビーミーっ子の姿がありました。楽しいリズムダンスに嬉々として取り組む姿、仲間と動きを合わせるのに工夫する姿、ときには取り組む姿勢の甘さを指摘され考え込む姿、ビーミーっ子はそれぞれ、いろいろな姿を見せながら、努力の過程を経て当日を迎えました。手話を取り入れたダンス、力強く演じたソーラン、集団の美しさを披露した高学年の表現演技、どれも素晴らしいものでした。リハーサル時に学校に来られた方に、「子どもたちの取り組む姿勢が素晴らしい」とお声かけいただいたときは、ビーミーっ子とともに一緒に取り組む先生方をほめていただけたようで嬉しくなりました。本番当日も力いっぱいの演技を披露し、来賓はじめ、本部テントにおられた皆様から口々に「感動した」「いいものを見せてもらった」とのお声をいただくことができました。



また、6年生は運営スタッフとして縁の下の力持ちの役割を立派に果たしてくれました。「学校の顔」「すごい6年生になりたい」子どもたちが4月に決意したことです。その一端をご覧いただけたのではないのでしょうか。

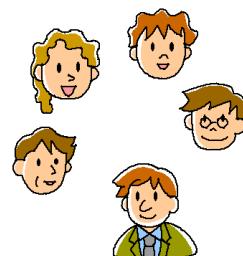
このような素晴らしいカーニバルになったのも、ビーミーっ子の頑張りはもちろんのこと、おうちの方のご理解とご協力があったからだと強く感じました。熱中症を気かけながらのお茶の準備、汚れた体操服の洗濯、毎日の食事や睡眠時間の確保などの体調管理など、心を寄せてくださいました。弱音を漏らしたときに励ましの言葉をかけてくださったこともあったかもしれません。子ども達、保護者の皆様、教職員、すべての協力のもと行われる学校行事は子どもたちを大きく成長させる貴重な機会です。今後とも、ビーミーっ子のために、お力添えをよろしくお願いいたします。

また、PTAの皆様には、前日準備に始まり、保護者の誘導をはじめとした当日の運営に至るまで、大変お世話になりました。ありがとうございました。閉会後のテントの片付けをお手伝いくださった皆様にもお礼申し上げます。

校長 松田 文貴

《学校運営協議会》

ゆりのき台小学校はコミュニティ・スクールとして学校運営協議会を設置しています。コミュニティ・スクールとは、学校、家庭、地域住民が教育におけるそれぞれの役割のもと、連携しながら子どもたちを育てていくために、協力して学校運営に取り組む学校です。本校ではゆりのき台で成長していく子どもたちをどのように育てていくのか、協議会の委員それぞれの立場から意見をいただき、学校の目標設定、学力を育成、環境整備、学校が直面している課題などを共通理解し、課題解決のためにできることを考え、それぞれの立場で取り組んでいただいています。また、児童や保護者アンケートを基にした学校評価結果についても評価・検証いただき、学校の取り組み改善につないでいます。保護者代表、ボランティアコーディネーター、自治会や地域活動協議会をはじめとした地域の団体の代表など、子どもたちに関わりの深い方々に委員としてお世話になっています。



現在、「学校の教育課程への地域の教育力の活用」「学校敷地内の植栽管理などの教育環境整備」などビーミーっ子のための取り組みが行われています。「チーム園芸（仮称）」も発足しました。

☆個に応じた学びの場 ～ゆりのき台小学校の特別支援教育～

1. ゆりのき台小学校には、特別支援学級（チャレンジルーム）で学習している児童がいます。また、通常の教室で指導補助員の先生の支援を受けながら学習したり、通級教室で支援を受けたりする児童がいます。それぞれの個性を大切にしながら、状況にあった学びの場を設けています。
2. 一人ひとりの児童が安心して生活、学習できるよう、学校全体が特別支援教育を大切にしており、支援の必要な児童には、担任だけでなく他の教師も支援ができる体制をとっています。
3. 学習する形態が異なっても、自分にあったペースで一生懸命に頑張っている子のことを理解し、お互いを認め合う集団をつくっていくことが大切だと考えています。すべての子どもたち一人一人が大切にされ、それぞれの個性や多様性を認め合い、ともに仲良く助け合っていくことをめざしています。

○特別支援学級における指導

それぞれの児童の個性や能力を伸ばし、将来の自立にむけて特別支援学級（チャレンジルーム）での指導及び交流学級での指導を児童の実態に応じて行っています。

1. 特別支援学級在籍の子どもではありますが、交流学級の児童にとっては、自分たちのクラスの一員としてお互いに認め合い助け合う指導を行っていきます。
2. 全クラスで、教材を使って、支援を必要とする人についての理解を深める学習を行っています。
3. 交流学級担任がチャレンジルームの学習の様子や作品を見に行くなどして、特別支援学級で学んでいる児童を理解する機会を取り、クラスの子どもたちに伝えるようにしています。

○通級教室における指導

それぞれの児童の困り感に寄り添いながら、週に1～2時間、課題の解決に向けた授業を通級教室（ステップアップルーム）にて個別に学習しています。

1. 物事のわかり方や、見え方、聞こえ方について、また、人とのかかわり方について、うまくいかに困っているときに、上手に対応できるように学習しています。
2. 通級教室の様子、日常の学級内での様子などを担任と連携しながら、学んだことが日常の生活で生かせるように取り組んでいます。
3. 必要に応じて家庭と連携を図ります。また、困りごとがある場合の相談にも対応しています。

※特別支援学級や通級指導教室は、その子に応じた個別の指導を行いますが、一般的な塾や家庭教師のような学力補充の場ではなく、その子の困り感を解消するために必要な学習活動を行う場です。

「万緑の 中や吾子の歯 生え初むる」（中村草田男）

野山は新緑の季節らしく、緑にあふれ、草木がぐんぐん伸びている。そんな中、愛するわが子に初めて、白い歯が生えてきた。うれしいなあ。・・・親のわが子に対する愛情がひしひしと感じられる一句です。新緑まぶしいこの季節、私たち大人もこんな気持ちを忘れずに、ビーミーっ子を育てていきたいものです。

